

第4章 授業実践

第1節 授業実践1 小学部1年「くらしをまもる車」(学校図書 こくご1年下)

実施時期：平成25年11月

授業の視点

- ・ 「くらし」「はたらき」「くふう」といった抽象度の高い言葉を児童の生活経験等に合わせた別の言葉に置き換えることが、意味や使い方の理解を助ける手立てとなっているか。
- ・ 内容に関連した写真を提示したり、くらしをまもる車になったつもりで動作化したりする活動を取り入れることが、「はたらき」と「くふう」の関係を具体的に理解する手立てとなっているか。
- ・ 事前に様々な車に関する写真や動画を見せたり日常生活の中で話題に乗せたりすることで、興味を持って学習活動を行うことができたか。

1 学級及び児童の実態

- ・ 男子2名、女子2名の計4名。全員本校幼稚部を修了後、小学部に入学。
- ・ 学級での主なコミュニケーション手段は、キュードスピーチや簡単な手話、身振りである。
- ・ 4名とも、経験したことや見たことなどを進んで表現する。授業中のみならず生活全般を通して活発にやりとりする様子が見られる。
- ・ 女子1名(D)は、入学当初ひらがなの読み書きが殆どできず、不明瞭な発話が多かった。入学後、ひらがなの学習を通して音韻と文字とが一致するようになると発話の明瞭度が向上した。現在は、聴覚口話によるコミュニケーションが中心でキュードスピーチでの表出は殆ど見られない。従って他の児童とのやりとりには教師の仲介が必要な場面も多い。

2 題材について

《国語科指導の経緯》

1学期の前半はひらがなの習得に時間をかけ、音韻を意識した音読や言葉集め、しりとりなどの言葉遊びを通して、語彙の拡充や文章を読む素地作りを心がけてきた。しかし、文章を読み取ることに限っては、その経験も少ないことから、書かれていることをもとに考える活動にはかなり戸惑いが見られた。主体的に読んで分かることより、話を聞いて分かることの割合がはるかに多いという段階であった。そこで、個別の指導計画の長期目標を、「興味を持って簡単な文章を読み、書かれていることの大体を理解することができるようにする。」「見たことや経験したことなどについて話したり簡単な文章を書いたりすることができるようにする。」と設定した。児童の生活経験に即した読み物や、興味をもてるような内容の読み物を取り上げることで、読む楽しさや新しい知識を得たりすることの喜びを味わうことができるようにしたいと考えた。また、読む力をつけるためには言葉で考える力も必要であることから、話し合いを中心とした言語活動の充実にも力を入れていきたいと考える。

《説明文の指導の経緯》

説明文の学習としてこれまで「いきもののあし」「まめ」の二つの教材を扱ってきた。授業

では、書かれた内容をできるだけ詳しくイメージすることができるような指導を心がけてきた。「いきものあし」では、一文ずつを分けて提示することで着目する範囲を限定した上で、「何」「どこ」「どんな」の問いに答えられるようにした。また、挿絵（写真）を丁寧に見て、気づいたことを本文の記述と結び付けていくことや、記述の通りに動作化して確認したりする活動を取り入れた。児童は写真をよく見て、「水かきは泳ぐときに足につけるもの（フィン）と似ているよ。」とか「遠く泳げるよ。」とか「足の裏が柔らかいよ。そっと歩けるよ。」などと気付いたことや経験と結びつけて考えたことなどを活発に発表する様子が見られた。また、「まめ」では、段落ごとに時間の順序を確かめながら写真と対応させたり、豆の生長の様子を動作化したりすることで書かれていることを具体的にイメージすることができた。しかし、尋ねられたことについて適確に答えたり、言葉の意味を正しく捉えたりすることには、まだ課題が多く見られた。

《本題材の価値と指導方針》

本題材は、入門期の説明的文章である。10の形式段落で構成され、全体は「はじめ」「中」「終わり」という三つの役割に分けられている。「問いの文」と、それに対する「答えの文」という構造である。1センテンスがほぼ30文字前後で書き表され、内容的にも、児童の生活と身近な素材を具体例に取り上げており、本グループの児童も興味を持って読み進めることができると思われる。

本時は、「くらしをまもる車」の一つであるごみ収集車の働きやそのための工夫について読み取る。書かれた内容を正確に読み取ることはもちろんであるが、文章に対する自分の意見や感想を持つことも大切にしていきたい。そのためには子どもたちの生活経験を十分に引き出せるような発問を工夫するなどして、自由な話し合い活動ができるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 「たずねている文」と「答える文」を結びつけて捉え、それぞれの車の働きや工夫について読み取ることができる。
- (2) 知らせたいことが分かるように、文と文との続き方に気をつけながら、順序よく書くことができる。

4 題材の指導計画（本時 8 / 12 時間扱い）

- | | |
|---|--------------------|
| ① 題名について話し合う | 1 時間 |
| ② 全文を読み写真をもとにあらましをつかみ、感想を話し合う。 | 1 時間 |
| ③ 漢字や語句の学習をする | 1 時間 |
| ④ 「くらしをまもる車」についてイメージを深める。 | 1 時間 |
| ⑤ 問いの文章から読み深める視点を整理する。 | 1 時間 |
| ⑥ それぞれの車の「はたらき」と「くふう」を読み取る。
・救急車 ・消防車 ・ごみ収集車 | 3 時間
(本時 3 / 3) |
| ⑦ 三つの車の働きと工夫を表にまとめる。 | 1 時間 |
| ⑧ その他の「くらしをまもる車」についての説明を書き発表し合う。 | 3 時間 |

5 本時の指導計画

本時の学習場面：学校図書 国語 1 年下「くらしをまもる車」 p64 8 行目～p65 3 行目

(1) 目標

【全体目標】 ①ごみ収集車の働きや工夫について読み取ることができる。

②読んで分かったことや思ったことなどをすすんで発表することができる。

【個別目標および手立て】

児童	目 標	目標達成のための手立て	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集車の働きを読み取り、そのための工夫を具体的にイメージすることができる。 最後まで質問を聞いて答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はたらき」を「しごと」に置き換えて考えるようにする。 「何を積むのか」「どこに積むのか」「どれぐらい積むのか」等、具体的な発問をする。 質問が伝わっているかどうか確認の声かけをする。 	<p>ごみ収集車の働きと工夫を結びつけて考えたことをすすんで発表している。</p> <p>落ち着いて話し手を見てから発言している。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集車の働きを読み取り、そのための工夫を経験と結びつけて考えることができる。 尋ねられていることが分かり、答えを本文から探すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみを押しつぶした経験を思い出せるような問いかけをする。 主な発問をカードにして提示し、本文に目を向けるよう促す。 	<p>ごみ出しやゴミ捨てなど自分の経験をすすんで発表しごみ収集車の働きを理解している。</p> <p>本文の記述にある言葉を使って発表している。</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集車の働きと工夫について、順序よく関係づけて読み取ることができる。 話し合いの約束に沿って、発表したり聞いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はたらき」を「しごと」に置き換えて考えるようにする。 「なぜごみを押しつぶすのか。」を考えられるような問いかけをする。 	<p>工夫のある訳を働きと関係づけて「・・・から・・・できる。」と発表している。</p> <p>挙手をしてから発表したり、文末までははっきりと話したりしている。</p>
D	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集車の働きを読み取り、そのための工夫を経験と結びつけて考えることができる。 気付いたことや思ったことを正しい文型で話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はたらき」を「しごと」に置き換えて考えるようにする。 ごみを押しつぶした経験を思い出せるような問いかけをする。 曖昧な表現は正しい文に言い直すようにする。 	<p>ごみ出しなど自分の経験をすすんで発表し、ごみを押しつぶすと小さくなることに気付いている。</p> <p>正しく口声模倣している。</p>

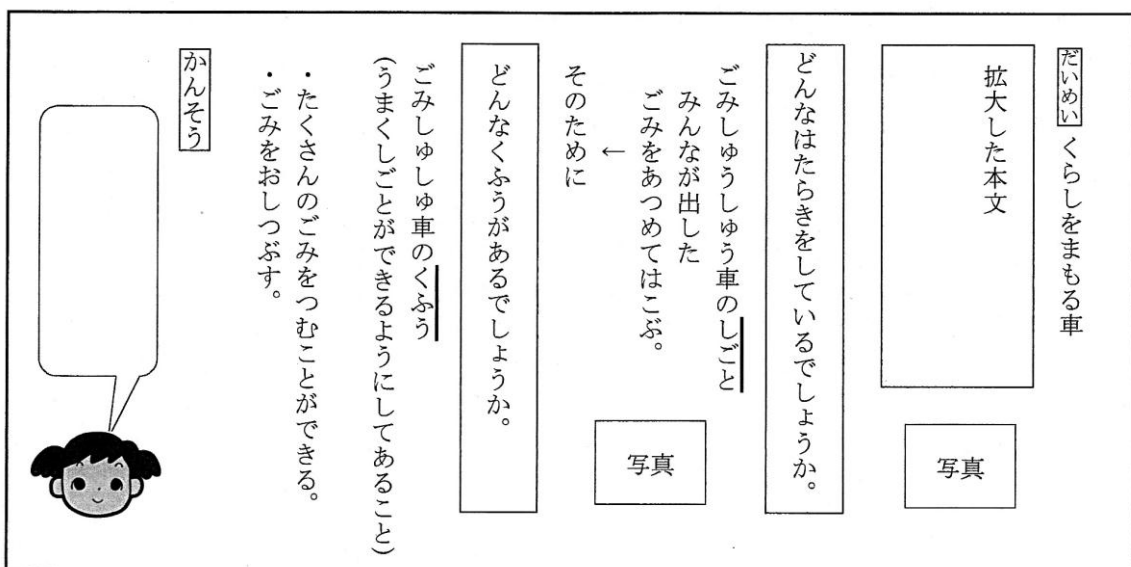
(2) 本時の展開

時間	学習活動と内容	支援の方法および留意点	教材・資料
5	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>○消防車の働きは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火事をけす。 <p>○ そのためにどんな工夫がされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いきおいよく水を出すことができる。 ・ まわりにあいずを出してはやくはしることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習をまとめたものを掲示しておく。 ・ 段落のはじめの文に働きが、「そのために」に続く文に工夫が書かれていたことを確認する。 	前時の学習をまとめたもの
2	<p>2 本時の学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(ごみしゅうしゅう車は) どんなはたらきをしているのでしょうか。 (ごみしゅうしゅう車には) どんなくふうがあるのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの問いの文はカード化して掲示しておく。 	文字カード
3	<p>3 本文を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉のまとまりに気をつけて読むように伝える。 ・ どこを読んでいるか分かるように、拡大して提示してある本文を指し示す。 ・ T2はD児がリズム良く読めるように補助する。 	教科書本文の拡大模造紙
25	<p>4 本文を詳しく読んで考える。</p> <p>○ ごみ収集車は、どんなはたらきをしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが出したごみをあつめてはこぶ。 <p>○ 「みんなが出したごみ」とはどんなものか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ袋に入っている。 ・ ごみ捨て場に置いてある。 ・ 残した食べ物 ・ 紙くず ・ お菓子の袋 ・ いらぬ物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いの文「どんなはたらきをしているのでしょうか。」を再度提示し、「はたらき」は「しごと」と同意であることを掲示物で確認する。 ・ D児にはT2が、前時と同じくはじめの文に着目すればよいことを伝え、自信を持って考えられるようにする。 ・ 「みんな」とは誰のことか尋ね、自分の家からもごみを出していることを理解できるようにする。 ・ 普段の家での生活からごみが出る場面を想像するよう促し、どこの家からも毎日出る物であることをおさえる。 ・ ごみステーションに置かれたごみの 	ごみステーション

<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんある。 ○ そのためにどんな工夫があるか。 ・ たくさんのごみをつむことができる。 ○ 「そのため」とはなんのためか。 ・ みんなが出したごみをはこぶため。 ○ たくさんつむためには、どんな工夫があるのか。 ・ ごみをおしつぶすようになっている。 ○ おしつぶすとどうなるか。 ・ 小さくなる ・ 少なくなる ・ うすくなる ・ たくさん入る ・ かさばらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を提示し、ごみの量についても想像できるようにする。 ・ 問いの文「どんなくふうがあるでしょうか。」を再度提示し、「くふう」とは「うまくしごとができるようにしてあること」「よいほう ほう」と同意であることを掲示物で確認する。 ・ 「そのために・・・できます。」を手がかりに答えを探せることを前時までの学習から確認する。 ・ D児にはT 2 が、前時と同じであることを伝え、自信を持てるようにする。 ・ 「そのため」の使い方を書いた例文を掲示しておく。 ・ どこにつむのか、ごみ収乗車の写真を提示して具体的に示せるようにする。 ・ 「たくさん」の意味を尋ね、ごみ箱にごみ がたくさん入っていた様子と結びつけて考えられるようにする。 ・ ごみ袋で何個分くらいか尋ねる。 ・ 必要に応じて、ごみステーションに置かれたごみの写真を提示する。 ・ 二つの同じ大きさの箱（収集車の荷台に見立てた物）に、ごみ袋を押しつぶした物と押しつぶさない物を入れて比較できるようにして、気付きを促す。「小さくなる」「かさばらない」等具体的にイメージできるようにする。 ・ C児には、「なぜ、おしつぶすのか」理由を尋ね、「おしつぶすと、ごみが小さくなってたくさん積むことができるから。」と工夫と働きの関係を言えるようにする。 	<p>の写真</p> <p>文字カード</p> <p>例文を書いた 掲示物</p> <p>ごみ収乗車の写真</p> <p>ごみ袋写真</p> <p>箱(ゴミ収集車の荷台に見立てた物)</p>
<p>5 ごみ収集車になったつもりで、動作化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ収乗車のお面を用意する。 ・ 動作化の際、「ぼくは～だから、～できるよ。」と言えるように文型カードを提示する。 	<p>お面</p> <p>文型カード</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 接続語を使った表現が難しいと思われる B, D児には、 「ぼくは<u>ごみしゅうしゅう車</u>だよ。」 「<u>みんなのごみ</u>をあつめるよ。」 「<u>ごみをおしつぶす</u>よ。」 「<u>たくさん</u>あつめるよ。」 という穴埋め例文を提示して、言えるようにする。 	吹き出し ワークシート
6	学習の感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことが言いやすいように吹き出しを用意する。 児童からの意見が出にくいときは、T2がヒントになるような意見を言うようにする。 	

6 板書計画



7 授業の実際

(1) 本単元の事前指導

① 教材文で用いられる言葉の理解を促すための指導

「ぐらしをまもる車」の教材文は、児童が乗り物に興味・関心を持っており、取り組みやすいと当初考えていた。しかし、教材研究をすると、教材文には「ぐらし」、「まもる」、「はたらき」、「くふう」等の抽象的な言葉が多く使用されており、小学部低学年の聴覚障害児には大変難しい文章であった。このため、児童が自分の生活経験を基に考えることができるよう、題材導入前に言葉を押さえる場を設けたり、題材の指導では児童が習得している言葉に置き換えてたりして指導を進めた。

例 「ぐらし」は、ことば絵じてんの絵を見せ、児童にイメージを持たせてからぐらしに関わる具体的な行動を児童に考えさせ、言葉にまとめた。これを教室に掲示しておき、それぞれの車がまもるぐらしとは何かを考える手がかりとした。

例 「はたらき」は、「仕事」という言葉に置き換えたところ、子どもに分かりやすかった。

例 「くふう」は、題材に入る前から日常生活場面で、教師が意図的に使うようにし、「～できること」という表現と合わせて理解することができるようにした。

例 「まもる」は、「身を守る」という意味で使われることが多い言葉。本題材のように「サポートする」という意味でとらえさせるのは難しかった。

② 動画や画像の活用

本題材の事前、題材の指導時間の中で、「はやく走る」とはどのようなことかイメージを持たせるために「消防車が出動する映像」「救急車や消防車が、一般の車を追い越していく映像（web上で入手）」を児童に見せた。映像や画像は、児童が見て分かりやすい反面、「何のために、何を見せたいのか」を教師自身が考えて適したものを選ばないと、児童が本文を忘れて考えてしまったり、指導のねらいとかけ離れた話題に流れたりしてしまうので、目的や意図を明確にする必要がある。

(2) 授業記録

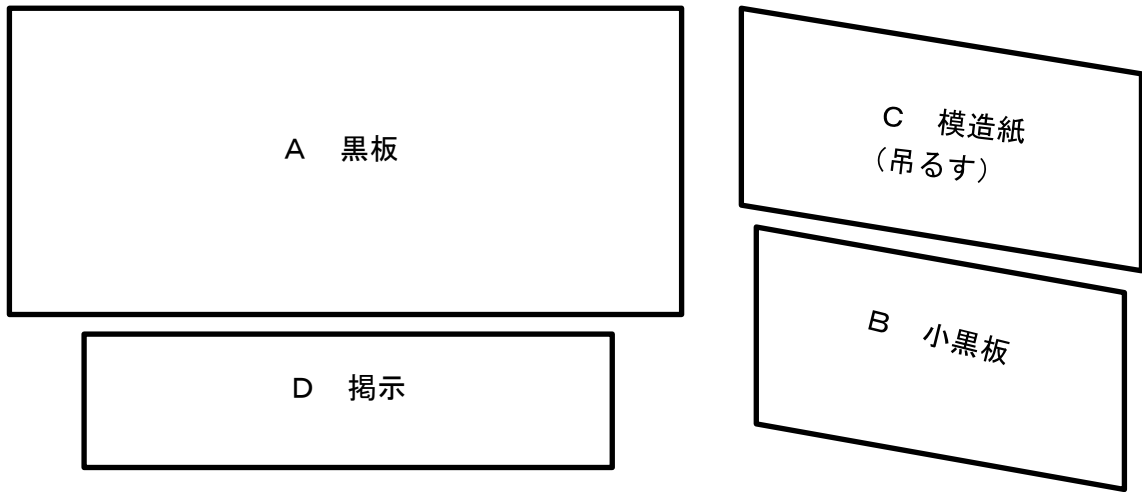
教師の働きかけ	児童の反応	教材活用等
<ul style="list-style-type: none"> 今日のお勉強の題名を言ってください。 じゃあ、めあては？ 今まで、いくつ車が出てくる？ 一つずつ発表してください。 昨日は何の勉強をしたの？ (黒板脇に掲示した既習事項を指し)昨日は、どんなはたらきか、どんなくふうがあるか、二つの問題を考えました。 そうね。どんなくふうがあったかという、(掲示を指しながら) <ol style="list-style-type: none"> いきおいよく水を出すことができる。 まわりにあいずを出す。 	<p>全員「くらしをまもる車」</p> <p>C、D「はたらきとくふうに気をつけてよみましょうです。」 →全員でめあてを読む。</p> <p>B「3つです。」 A「しょうぼうじどうしゃです。」 B「きゅうきゅうしゃです。」 C「ごみしゅうしゅうしゃです。」 A、B「しょうぼうじどうしゃです。」</p> <p>B「(既習事項をまとめた模造紙を見て)(しょうぼう車は)かじをけします。」(Bは昨日欠席し学習していない)</p> <p>D「「できる」(っていうところが)だいじ。」</p> <p>D「(だから)はやくはしれる。」</p>	<p>→めあてカードを掲示</p> <p>既習事項をまとめた模造紙をあらかじめ掲示</p>
<ul style="list-style-type: none"> 今日は、3番目の自動車です。 今日も問題二つを考えます。今日の場面は、どこからどこまで書いてありますか？ 	<p>A「ごみしゅうしゅう車です。」</p> <p>全員：今日の学習場面のはじめとおわりを教科書で指差す。</p> <p>D「(掲示された本文を見て)「できます。」って書いてある！」</p>	<p>→本文を拡大した模造紙を掲示</p>

<ul style="list-style-type: none"> 今日勉強するところを読みましよう。 (一つ目の問題)「ごみしゅうしゅう車は、どんなはたらきをしているのでしょうか。」を掲示。 今読んだところに答えが書いてあるよ。 まちがいではないね。ここ(本文)に書いてあることばで言ってくれるかな? 「できます。」っていうのは、工夫のことだったね。 <ul style="list-style-type: none"> それは、どこに書いてあるの? そうだね。じゃ、書くよ。「みんなが出したごみをあつめて…」短くまとめて「運ぶ。」って書くよ。 みんなって、誰? Aさんの家では(ごみを)出す? <ul style="list-style-type: none"> 先生の家でも出すかな? (ごみ置き場の写真を貼り)これは先生の家近くです。 (写真を見て)どう思う? ごみって、どんなものがある? <ul style="list-style-type: none"> 先生、家からごみ持ってきました。(実物が入った袋を見 	<p>全員：一斉に音読する。</p> <p>D「しごと？」 A、B「う～ん。(首をかしげる)」</p> <p>B「ごみをすてる。」</p> <p>A「「ごみをつむことができます。」ってある。」</p> <p>C「「ごみしゅうしゅう車は、みんなが出したごみをあつめてはこびます。」です。」 A「え?(Cに)もう1回言ってください。」 (Cがもう一度言い、Aもうなづいて復唱する。)</p> <p>B(自分の教科書の文を指差す。)</p> <p>C「人。」 A「出す。ぼくも出したことあるよ。」 B「うん。ある。」 C「うん、私も出します。」 D「私も出します。」 全員「(先生も)出すでしょ!」</p> <p>D「(ごみが)いっぱい。くさいよね。」 A「葉っぱ。」 D「秋になると(葉っぱが)いっぱい落ちる。あとは…缶、缶もある。」 C「ビールの缶。」 B「ごみ、ごみ…。」D「ティッシュとか。」 B「あ、ティッシュ。」 D「あと、新聞。」 A「おやつ。」C「おやつの袋。」</p> <p>D「大変だ、いっぱいだー。新聞は？」 C「(家では)あめの袋も捨てる。」</p>	<p>問題文カードを 掲示</p> <p>・ごみ置き場の写 真</p> <p>・家庭ごみの実物</p>
---	--	---

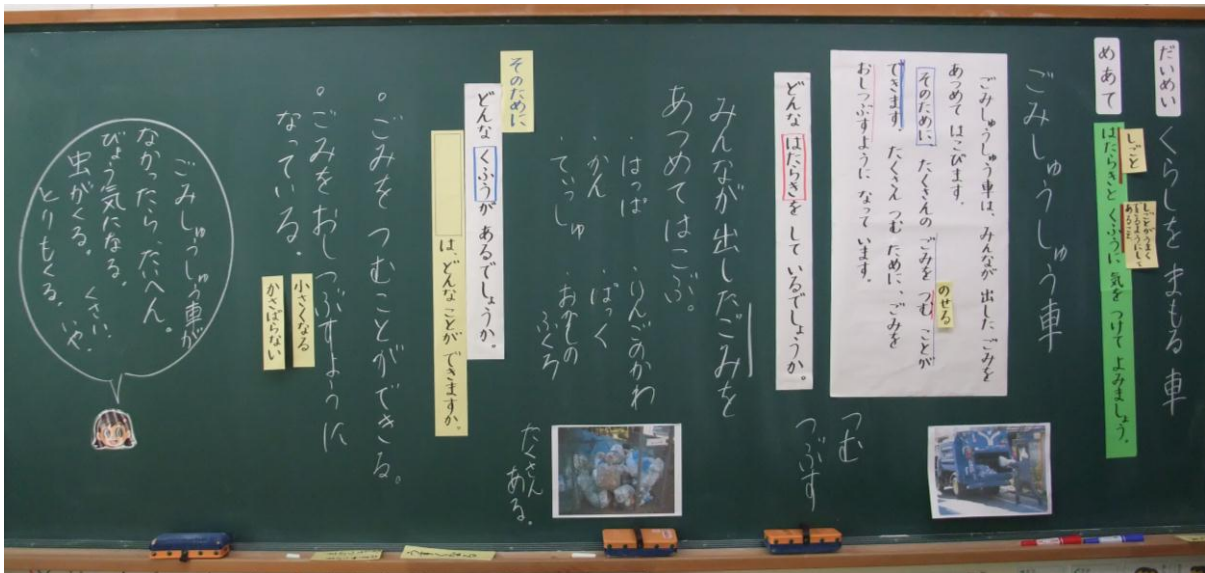
<p>せ、中からリンゴの皮、お菓子の袋、豆腐のパック、ヨーグルトのカップ、ちり紙を取り出して見せ、板書する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみしゅうしゅう車は、こういうごみを集めて運ぶんだって。そのために、どんな工夫があるのかな？ → (二つ目の問題)「どことなくふうがあるでしょうか。」を掲示。脇に言い換えた文「 はどんなことができますか。」を掲示。 「そのために」の後に、工夫が書いてあるよ。 短くまとめて書くよ。「ごみをつむことができる。」と板書 「つむ」って、分かる？ ああ、それは「つぶす」の方です。つむって、「のせる」ことだよ。どこにのせるの？ (ごみしゅうしゅう車の写真を指し) ここ？ここ？ Cさん、見たことあるって言ってたよね。 先生、ごみしゅうしゅう車を持ってきました。(ごみしゅうしゅう車に見立てた段ボール箱、新聞紙をつめたごみ袋を見せる。) みんなごみをつむことができますか？ 今、Cさんがごみをつんだよ。つんだだけでなくて、何したの？ぎゅうぎゅうってやったね。 何が？ それは(教科書に)なんて書いてあるのかな？ 	<p>C「分かった！はい！はい！「そのためにたくさんのごみをつむことができます。」です。」</p> <p>B「そのためにたくさんのごみをつむことができます。」</p> <p>C (つぶす動作をする。)</p> <p>B「ごみしゅうしゅう車。」</p> <p>B (写真を指し)「ここです。」</p> <p>C「おじさん、やった。」</p> <p>B「ぼくも見た。おじさんとおばさんがいた。」</p> <p>C「やってみる。」(ごみ袋を1つ、2つ入れ、手でつぶして3つめを上重ねる。)</p> <p>B「いっぱいになると(ごみが)落ちちゃう。」</p> <p>D (Cと同じようにごみをつぶす動作をしながら)たくさんあるから。</p> <p>D「ごみがたくさんあるから。」</p> <p>C「たくさんつむために、ごみをおしつぶすようになっています。」 →全員でもう一度読む。</p> <p>C「押してつぶす。(動作も交えて)」</p>	<p>問題文カードを 掲示</p> <p>ごみしゅうしゅう車の写真</p> <p>ごみしゅうしゅう車に見立てた段ボールごみ袋(中身は新聞紙)</p>
--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おしつぶす」って、どうするの？ ・ 誰がおしつぶすの？ ・ 車がおしつぶすようになっているんだね。「ごみをおしつぶすようになっている。」と板書。 ・ ごみをおしつぶしたら、どうなる？Bさん、やってみて。 ・ どうしておしつぶしているの？ ・ 「小さくなる」「かさばらない」の文字カードを掲示する。 ・ ごみがなくなった、きれいになったね。ごみしゅうしゅう車が無かったらどう？ ・ (板書) ごみしゅうしゅう車がなかったら、たいへん。びよう気になる。虫がくる。小さい… ・ ごみしゅうしゅう車は、やっぱりくらしを助けてくれるんだね。 ・ 最後に、もう一度読みましょう。 (板書の問題と答えを指す) ・ 今日の勉強を終わります。 	<p>→教師の模倣「ごみをおしつぶしました。」</p> <p>C「車。(ごみしゅうしゅう車の写真を指し) おじさんがごみをここにポイント投げて、ここがグルグル(動作)する。」</p> <p>B「おじさんじゃない。車がグルグル(動作)する。」</p> <p>A(押しつぶす動作) →教師の模倣「おしつぶす。」</p> <p>B(ごみしゅうしゅう車にごみを入れ押しつぶす。) 「小さい。」 →教師の模倣「小さくなりました。」</p> <p>B「どうして?・・・ごみがたくさん、いっぱいあったから。」</p> <p>D「ごみ、いっぱいになる。小さくなる。」</p> <p>C「人がつぶすと何か飛び出てさされてかゆくなる。」</p> <p>全員 「ごみしゅうしゅう車は、どんなはたらきをしているのでしょうか。みんなが出したごみをあつめてはこぶ。」 「どことなくふうがあるのでしょうか。ごみをつむことができる。ごみをおしつぶすようになっている。」</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">文字カード</p>
---	--	---

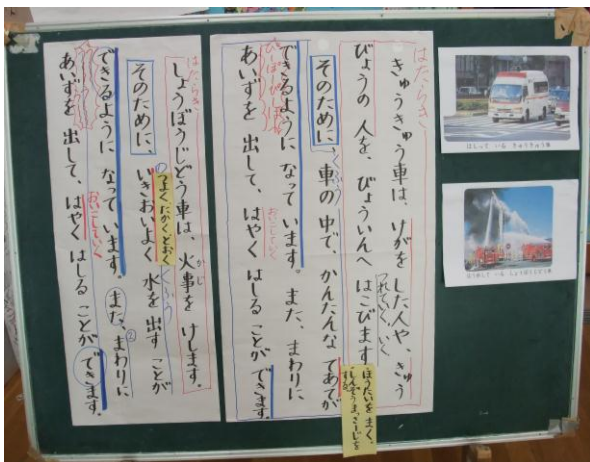
【当日の板書、教材の配置等】



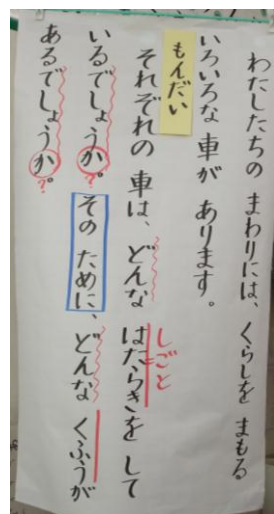
A 黒板



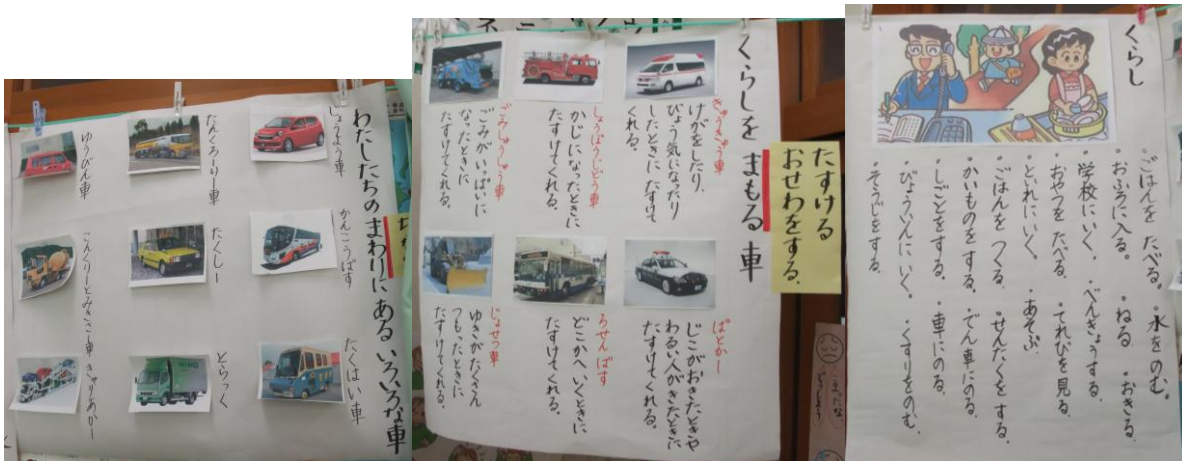
B 小黒板



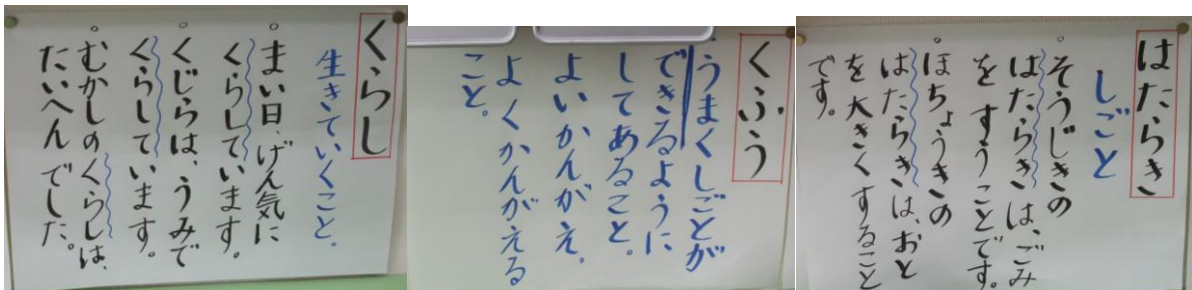
C-1 模造紙



C-2 模造紙



D 掲示



8 授業研究会での協議

(1) 参加者

研究協力機関校長、教頭及び小学部教員、研究協力機関（他校）関係者

(2) 主な協議内容

授業者が提案した「授業の視点」に基づき、本時の指導において、教材が児童の意欲を高めたり、書かれてあることへの理解を促すことに役立ったりしたかについて協議・意見交換を行った。

① 児童が「つむ」を「つぶす」と理解していたことへの気づきと意味理解を促すための教材活用

ア 授業者の意図

- ・ Cが「つむ」を「つぶす」と理解していたことは、本時のCの反応（つぶす動作）を見て初めて気付いた。正直、驚いた。Cは「つぶす」は予め知っていたようだ。似たような新出語句を自分の知っている言葉に置き換えてしまうのは、聴覚障害児ではよく見られる。本時では、「つむ」を「のせる」と置き換えて説明したが、言葉での説明だけでは十分に理解したとは言えなかったようだ。
- ・ 当初、ゴミ収集車をお面にし、児童がごみしゅうしゅう車になりきる活動を計画していた。しかし、単元に入る前、清掃時間に子どもとゴミ捨てに行ったが、子ども達にはごみを押しつぶすという発想はなかった。そこで本時の展開を計画する段階で周囲の教員と検討した結果、「(ごみを)おしつぶす」ことが理解しやすいよう段ボール箱を用いてゴミ収集車を作った。本時で複数のゴミ袋とゴミ収集車を用いて動作したことで、「つむ」と「つぶす」

が違うこと、「おしつぶす」の意味を理解することにつながったと思う。

イ 参加者の意見

- ・ 教材研究の段階で子どもにとって難しい言葉や文を予測することは、聴覚障害児の教科指導上の専門性の一つと言える。授業者は、今日の授業で見られた児童の反応を見て「つむ」を「つぶす」と誤って理解していることに気付いていた。教材文の言葉や文、教師の発問に対して、「児童がどのような反応をするのか。」そして「教師がどのような手立てをとるか。」を日ごろ想定して授業をしているためと思われる。このため、当初想定していなかった児童の反応にも気づき、ゴミ袋やゴミ収集車を使った動作を用いて意味理解を促すことができた。このようなことが、学習指導案の「指導上の留意事項」に記載すべき内容だと考える。
- ・ 本時のゴミ収集車のような見栄えの良い物（教材）を低学年児童の目の前に出した場合、物への興味ばかりが先行してしまいかねない。しかし、今日の授業では、動作させる場面と本文に戻して考えさせる場面の使い分けがとても良くできていた。
- ・ 「つむ」と「おしつぶす」の意味が混同しないよう「(固いものを) つむ」動作と「押しつぶす」動作とを分けて示してみせる方法もある。
- ・ 「つむ=のせる」と別の言葉に置き換えた場合、子どもが言葉の意味を間違えて覚えてしまうことも予想される。
- ・ ゴミ収集車には、トラックでゴミを集める場合もある。各児童が見たことのあるゴミ収集車がどのような車かを話題にし、その車での「つむ」をとらえさせた上で「おしつぶす」のはどのような車かを考えさせる方法もある。
- ・ 一般的には、「つむ」は物を積み上げる意味だが、ゴミ収集車の「つむ」は意味が異なる。このような用語が本題材ではいくつか見られた。ゴミ収集車にも様々な種類があり、児童が実際に目にしていること、目にしてどのように理解しているのか、個人差がある。こうした意味で、教材文の難しさを改めて感じた。
- ・ 子ども達が目にしているゴミ収集車の場面は、「ゴミを投げ込む」様子で、「つむ」ではないだろう。「おしつぶす」は、上から押すイメージだけれども、ゴミ収集車の場合は上から押す訳でもない。ゴミ収集車の様子を動画で見せようとも考えた。しかし、本文の主旨はゴミ収集車の仕組みというよりも「はたらき」とその結果（例「きれいになった。」）にあると考え、目を向けさせるようにした。
- ・ 教材（ゴミ収集車やゴミ袋）を使って動作化させるだけでなく、「おしつぶしたら、どうなる？」という発問も添えられたのが良かった。生活の中で考える（活用できる）ことができる問いかけだと思う。

② 児童が既習事項を想起し、本時の学習に活用していくための教材とその活用

ア 授業者の意図

- ・ 1年生の現段階では、文章による説明を読む活動だけでは、その内容を十分に理解することができないと判断した。乗り物は児童がある程度知識を持っているだけに、児童の中には、教材文の一部の語句や挿し絵を見て、本文の内容とはかけ離れた話に流れていくことも予想された。国語科として読む学習習慣を育てるために、題材全体のめあて「はたらきや工夫を読み取ろう」をカード化し、一貫して使用した。また、本時の問題「どんなはたらきか」「どんな工夫があるか」もカード化して使用した。これらの問題の答を本文から探し、探した答えがどのような内容なのかを正しく読み取ることを重視してきた。

- ・ 本時で読み取ったことは、模造紙にまとめ、既習事項として小黒板に掲示しておき、必要に応じて振り返ることができるようにした。

イ 参加者の意見

- ・ 「くらし」、「はたらき」、「くふう」の知識に関する基礎情報（事前に学習したこと）が掲示物になっていた。また、既習事項が掲示してあり、国語の学習の仕方そのものを学習できる環境や手立てがとられていた。したがって、子どもなりに本文から答えを探そうとしていた。語彙や文章理解にのみ時間を費やされてしまいがちだが、本文から読み取って考えるのが国語科の学習であるという国語科の学習習慣を育てることも大切だと思う。
- ・ 単元を通してつけたい力を明確にすることが重要である。本時の目標も具体的であった。目指す姿（発言、行動など）を具体的に設定しておく、教師の手立ても明確化される。限られた授業時間なので、重点をどこに置くかということにもつながると思う。

9 考察-教材活用の視点から-

「くらしをまもる車」（学校図書 こくご1年下）の授業及び学級担任への聞き取り、授業研究会での協議を通して、教材活用の視点から以下のことが明らかになった。

(1) 聴覚障害児にとっての教材文の難しさ

本教材文「くらしをまもる車」（学校図書 こくご1年下）では、まず、場面や状況により意味が変わる抽象的な名詞（「くらし」「まもる」「はたらき」「くふう」など）が挙げられる。これらの名詞は、用いられる場面や状況により表す意味が変わるため、具体物や絵を見せただけでは文脈に沿った正しい理解を図ることはできないものである。

次に、音韻が似ている言葉の意味を児童が既に知っている言葉に置き換えて理解してしまう場合があることが挙げられる。本実践では、児童が「つむ」を「つぶす」と誤って理解していた場面があった。このようなことが他の授業でも度々見られることを授業者も把握しており、授業中に確認したところ誤って理解していることが分かった。

さらに、「つむ」という動作語は、一般的に物を積み上げる意味で用いられるが、本教材文のゴミ収集車の場合は、ゴミを多く乗せて運ぶ意味で用いられている。このような動作語も場面や状況により意味が変わってくるため、一般的な意味の説明に留まらず、教材文で用いられている意味を理解させる必要がある。

(2) 教材文の難しさに対応するための事前指導や他教科との関連

難しさが予想された「はたらき」や「くふう」など抽象的な名詞の事前指導として、教師が学校生活の場で使う取組がなされた。具体的な場面の中で教師がことばを使うことで、児童が言葉そのものを知る機会を得ること、その言葉の意味を具体的な動作や場面を通して知ったり、使い慣れたりする機会となる。

また、他教科との関連として、生活科では、ことば絵じてんの「くらし」の絵を示し、児童に大まかなイメージを持たせた後、「くらし」の具体的な場面を文にまとめ掲示されていた。さらに、教材文で取り上げられる「乗り物」をくらしを守るという視点でも捉えられるよう、事前に身の回りにある車と名称を話題にして掲示しておく、くらしをまもる車と「まもる」の具体的な例を絵と文でまとめて掲示されていた。

さらに、事前指導や単元の指導の中で、乗り物がくらしをまもるための工夫を具体的にイメージすることができるよう、消防車の出動や一般車両を追い越す動画を見せる取組も行われた。

このような事前の取組は、教材文を読み進めるために必要な知識（くらしの具体例、乗り物とその働き、乗り物の働きと暮らしとの関連）を児童が得る機会となる。この結果、当日の授業では、今日読み取った乗り物のはたらきと結びつくくらしを掲示物で児童が自ら確認する場面も見られた。

（３）教材の意図と活用の仕方

本実践を通して、次のような教材の意図と活用がなされた。

① 教材文を読むために必要な知識や抽象的な名詞の理解を促すための教材

- ・ 「くらし」の絵と文（例 ごはんを食べる。そうじをする。）（C-2）
- ・ 「まわりにある車」の絵と名称を掲示しておく。（C-2）
- ・ 「くらしをまもる車」の絵と文（例 ごみがいっぱいになったときにたすけてくれる。）（C-2）
- ・ 「はたらき」「くらし」「くふう」の意味や文例（D）

これらの教材は、生活科や事前指導の内容を掲示しておくことで、教材文を読み進めるための既習事項として必要な時に掲示物に注目させたり、児童自身が手がかりとして活用したりすることができる。また、絵を用いて「くらし」のイメージを持たせるだけに留まらず、児童に自分の生活を振り返らせ、「くらし」を表す文を考えさせて記載しておくこと、言葉の意味だけでなく文例を記載しておくことなどは、低学年の段階から必要な取組である。このような取組の積み重ねにより、言葉で言葉や文を理解していく素地がはぐくまれるものと思われる。

② 前時の学習内容の想起を促すための教材

- ・ 教科書本文に書き込みをした模造紙（B、C-1）

各乗り物の「はたらき」と「くふう」、読み取るためのキーワードなどは、色分けや囲みのルールを決めて表記しているため、前時の学習内容を想起しやすくなる。また、本時でも何を読み取るのか、何を手がかりにして読み取るのかを考える手がかりとなるものでもある。

③ 本時のめあてを意識させるための教材

- ・ 「題材全体のめあて」「問いの文」のカード（A）

めあてをカードや短冊にして一貫して活用することは、教科学習の入門期である小学部1年生に対し、国語科として読む学習習慣、教材文に基づいて考える態度や習慣を育てることにつながるものである。特に、本時のめあてや学習範囲を児童自身が意識するためには、めあてを示しながら学習を進めることで目的に沿った読みを促すことが期待される。

④ 抽象的な動作語や場面の様子の意味理解を促すための教材

- ・ 動画や画像（消防車の出動や走行など）
- ・ ゴミ収集車（段ボール箱）やゴミ袋（新聞紙をたくさん詰め込んだ物）

乗り物のはたらきやくふうを具体的にイメージさせるため、動画や画像が活用されていた。授業者の指摘にもあったように、「何のために何を見せるのか。」指導者が活用の目的や意図を明らかにし、目的に合った映像を選択することが必要である。

また、ゴミ収集車とゴミを用いて動作化することで、場面の様子の意味理解を図っていた。小学部1年生の段階であるため、動作化をきっかけとして教科書本文の表現に注目させていた。動作化にあたっては、読み取ったことを動作化して確認する場合と、動作化して分かったことを教材文で確認する場合とが考えられる。このため、教科書本文と動作とを結びつけるための教師の発問や働きかけが必要である。